



# 『東北圏だより』

## プラス・トーキョー運動（東京 2020 に向けて）

### 新潟市

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会では、関係者をはじめ、多くの訪日外国人客が首都圏に集中し、空港やホテルの受入過剰が予想されています。新潟市では、飽和する首都圏の訪日外国人受入機能を補てんし、地方に東京 2020 の経済効果を波及させる取り組みとして、地方創生のための観光戦略「プラス・トーキョー」を県内外の自治体に呼び掛けています。

〈プラス・トーキョーとは〉

「プラス・トーキョー」は、2015年5月に三菱UFJリサーチ&コンサルティング 芸術・文化政策センター首席研究員/センター長の太下義之氏により提唱されました。

2012年のロンドン大会開催時には、同大会と連動して「外国人観光客にロンドンだけでなく、他の都市にも足を延ばしてもらおう」という観光キャンペーン「ロンドンプラス（London Plus）」が実施され、観光庁では東京 2020 大会においても「東京プラス」という戦略が想定されていたようです。一方、国土交通省や日本政策投資銀行の推計によると、東京 2020 大会開催時には成田空港、羽田空港の処理能力及び、東京のホテル需要は「需要超過」と予想されています。こうした予測を踏まえ、訪日外国人に地方空港から入国かつ、地方都市に滞在し、新幹線等の国内交通を利用し首都圏で競技観戦してもらおうというのが「プラス・トーキョー」戦略です。

〈地方の文化・魅力を世界へ〉

一般的には「スポーツ」の祭典として捉えられているオリンピックですが、IOCは大会開催にともない「文化プログラム」を実施することを義務付けています。

本市では、基礎自治体では国内2番目となる「アーツカウンシル新潟」を設立し、オリンピック文化プログラムに全市一体で取り組み、市民の文化芸術活動の活性化を図るとともに、国際観光の振興や経済活動の推進につなげ、大会終了後もその成果を継承することを目標としています。

日本のさまざまな伝統芸能を気軽に楽しめるイベント「アート・ミックス・ジャパン」や、約1万5千人の踊り子たちが全国から集い、約20万人もの観客が熱狂する「にいがた総おどり」、新潟市の「水と土」から生まれた暮らし文化を掘りおこし、広く発信する「水と土の芸術祭」をはじめ、地域の祭りや市民プロジェクトなどを文化プログラムとして推進しています。また、米・酒をはじめとする豊かな食文化を「日本の原風景」とともに楽しんでいただくことのできる「レストランバス」や「農家レストラン」の取り組みを支援し、「食文化創造都市」を推進しています。

本市は、特色ある文化プログラムや、全国有数の「食と農」といった魅力を訪日外国人客に楽しみながら滞在していただく「新潟プラス・トーキョー」を推進するとともに、全国の地方自治体にむけて「〇〇プラス・トーキョー（地方プラス・トーキョー）」運動を提案し、東京 2020 大会を契機とした地方活性化に向けた取り組みを提唱していきます。



▲2日間にわたり市中心部が熱狂に包まれる「にいがた総おどり」



◎「水と土の芸術祭 2015」  
撮影：中村 脩 氏



◀産地をめぐり、生産者とふれあいながら食を楽しむ「レストランバス」

▶「水と土の芸術祭 2018」では、アートプロジェクトをはじめとした5つのプロジェクトを展開

総務省東北総合通信局では、新たな電波利用と周波数資源の有効活用促進を目的とした電波利用システムの検討を行っています。

平成29年度は、小型無人機（ドローン）の自律飛行による見通し外での長距離飛行のニーズに資するため、「小型無人機の飛行位置把握に係る無線システムの調査検討会」を設置することとし、7月12日（水）、宮城県仙台市において、第1回会合を開催しました。

小型無人機の見通し外飛行のための電波利用については、ニーズの高まりを受け政府（小型無人機に係る環境整備に向けた官民協議会）や総務省（小型無人機の目視外飛行実現に向けた周波数有効方策に関する調査検討会）においても検討が行われているところです。

会合では座長に東北大学電気通信研究機構の加藤 寧 機構長を選出し、会津大学の矢口 勇一 准教授が副座長として座長より指名された後、議事に入りました。

はじめに本検討会の具体的検討事項として(1)新たな飛行位置把握システムの利用が期待される分野、扱う情報内容のニーズ把握（異なるユーザーの小型無人機が広域飛行エリアを同時に複数飛行することを想定）、(2)新たな飛行位置把握システムの基本的な構成、及び技術的条件の提案（プロトタイプ作成）、(3)実フィールドにおける検証（福島浜通りロボット実証区域（予定地を含む）において公開により実施）、(4)他の無線局との周波数共用条件の検討（干渉メカニズム及び与・被干渉にかかる共用条件）の4点とすることが承認されました。

今後、具体的な調査検討を進める上で、構成員から(1)無人飛行機位置把握システムのイメージ、(2)ドローンマッパーの開発と実証の状況、(3)福島県のロボット産業集積の取組などが情報として提供され、これらを踏まえ、電波伝搬特性や低消費電力化等の技術的事項や実フィールド（福島浜通りロボット実証区域）での実証実験実施に関する留意点などに言及した活発な議論が行われました。

これらの議論を踏まえ、本調査検討会で検討する小型無人機の飛行位置把握に係る無線システムの周波数帯について、消費電力が900MHz帯の約5分の1で済み、デバイス（サブGHzトランシーバIC）の入手が容易である等の優位性を有する400MHz帯とすることが確認されました。

本調査検討会は、今後4回の会合を開催し平成30年3月末までに調査報告書を取りまとめることとしています。この成果として得られる新たな飛行位置把握システムの基本的構成や技術的条件等が実利用につながることで、小型無人機の見通し外における安全運航に資することが期待されます。



▲検討会の様子

### 編集後記

今年の夏は雨の日が多く、夏休みの子供たちは少し不満気味のようでした。気象庁の3ヶ月予報では10月は平年よりも晴れる日が多いとの予報でしたので、秋の行楽シーズンに期待したいと思います。

さて、太陽で大型フレアが観測されたとの報道がありました。向こう1週間は人工衛星や送電線への影響が予測されているとのこと。個人でとれる対策はあまりないようですが、身の回りでのどのような事象が起きるのか気を付けておきたいと思います。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：thr-kou-suishin2@mlit.go.jp ※メールアドレスが変わりましたので、ご注意ください。